

国語科指導案

児 童 1年生男子1名 3年生男子2名 5年生男子2名 計5名

1 単元名 体を使って様子を表す文を書こう

2 単元について

(1) 児童について

本学級は1年・3年・5年の3学年が混じっていることや、同じ学年でも子どもの特性や発達段階の差があることなどから、サポートの先生の協力を得ながら、国語は個別の学習を中心に行っている。しかし、単元によって、みんなで発表し合ったり、聞き合ったりする場を取り入れ、みんなで学習する場も多くとるように心がけている。3学年一緒ということで、指導の難しさはあるが、自分の学年以外の学習内容を復習したり予習したりできる縦割りのよさを生かしながら指導に当たっている。

本学級の子どもたちは素直で真面目であり、教師の指示をよく守り一生懸命、学習に取り組んでいる。また、気持ちが優しくおだやかであり、5年生は1・3年生の、3年生は1年生の面倒をよくみようとしている。しかし、「話すこと」については、集団活動の様子を見ていると、相手意識が低く、周りが聞いていなくてもかまわず話したり、自分が話したいことがあると相手の話を遮って一方的に話したりすることがある。また、身につけている語彙の量が不足しているため、自分の思いを相手にうまく伝えられないという実態もある。「聞くこと」については、誰かが発表していてもその人を見ないで別なことをする子がいたり、話を最後まで聞かないで作業に取りかかるので、何度もやり直したりする子もいる。「書くこと」については、対象物をじっくり観察する意識が低かったり、詳しく表現するために必要な語彙が不足していたりするので、物の様子を詳しく文章で伝えることがうまくできないことが多い。また、主語・述語が整っていない文章を書くこともある。

(2) 単元について

「話す」「聞く」の力や相手の気持ちをくみ取る力が十分ではなく、人とのかわりがうまくできないという本学級の子どもの実態から、友達の考えを聞いて、良いところを見つけたりする活動やペアでクイズを考えたりする活動を取り入れた本単元は、子どもの力を伸ばすのにふさわしいものだと考えた。また、物をよく観察し、目・耳・口・鼻・手など体を使って物の様子を言葉で表現する学習は、「経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書く」(1・2年生の学習活動)や「修飾語と被修飾語との関係について初歩的な理解を深める。」(3・4年生の学習活動)、「語感に対する感覚などに関心を持つ」(5・6年生の学習活動)と関わってくるものである。本単元で指導する学習内容はどの学年にも関わり合いがあるので、3学年混じっている本学級で指導する内容としてふさわしいものだと考えた。そして、本単元の指導を通し、お互いの考えを認め合い賞賛し合うことで、児童一人一人の自己肯定感を高めたいと考えた。

(3) 指導について

今回の指導では、次の4点を指導のポイントにして進めたい。

(1) で述べたような本学級や子どもの実態から本単元では以下の4点を指導のポイントと考えた。

(3) 展開

段階	学習活動	支援と留意事項 (・) 評価 (◎)					備考
		1年A男	3年B男	3年C男	5年D男	5年E男	
つかむ	<p>1 物の様子をくわしく伝える文を書く。</p> <p>課題① ものの様子をくわしく伝える文を書きましょう。</p> <p>○実物を渡し、よく観察させる。 ○目を使って表現できる言葉を自分で考える。</p> <p>2 書いた文を発表する。 ○発表し、友達の表現の良いところを見つけ合う。 ○目以外にも体を使って様子を伝える文を考える。</p>	<p>・T2が個別支援を行う。</p>	<p>・T1が机間支援を行う。</p>				<p>目・手・口・鼻の絵 観察する物 (実物) ワークシート</p>
15分		<p>・実物を用意し、よく観察させる。 ・友達の発表を聞き、語彙の量を増やす。 ・話し合いを生かし、使いたい体の部分を自分で選び言葉を考え、整った文が書けるように個別に支援する。</p>					
深め	<p>3 「これはなんでしょう？」クイズを作る。</p> <p>課題② 二人で相談して「これはなんでしょう？」クイズを作ろう。</p> <p>○教師が例文を用意し、紹介する。 ○おやつを3種類用意し、紙袋に入れておく。</p> <p>2 ○1年生と教師・3年生2人・5年生2人のペアに分かれる。 8 ○体のどこを使ってヒントを表現するかペアで考える。</p> <p>○実物を見ながらヒントとなる文をペアで考え、ワークシートに書く。</p> <p>4 クイズを出し合う。 ○1年生・3年生・5年生のペアの順で発表する。</p>	<p>◎教師の声がけに反応し、答えることができているか。</p>	<p>◎体を使って、物の様子を詳しく伝える文を書くことができたか。(ワークシート)</p>				<p>3種類のおやつ 紙袋 くじ ワークシート</p>
8分		<p>・T2が個別支援を行う。</p>	<p>・友達の作文から、物の特徴をよくとらえている表現を見つけさせ、お互いの考えを認め合う。</p>				<p>3つのコーナーを作る。</p>
まとめ	<p>5 感想を発表し、お互いのがんばりを認め合う。 ○発表者の方を見て最後まで話を聞く。</p>	<p>・教師の例文を使い、聞き手が惹きつけられるヒントの内容や順番を話し合わせる。 ・相談しやすいような場の設定を考える。 ・実物をよく観察して、豊かな表現ができるようにペアでよく相談させたい。 ・相手の考えも受け入れるように促す。 ・友だちの考えた表現の良さに気づかせ、認め合える場にしたい。</p>					<p>◎二人で相談してヒントになる文を作ることができたか。</p>
2分							

- ①体を使って物をよく観察すること。
- ②友達の発表を聞き、語彙を増やすこと。
- ③友達と相談する場を設定し、相手の考えも受け入れる寛容な心を育てること。
- ④お互いを認め合う場を設定し、自分の考えに自信を持たせ、自己肯定感を高めさせること。

この4点を意識して指導計画を立てたり、授業展開や支援の方法や仕方を工夫したりしていきたいと考えた。

どんぐり学級の児童は、やさしく素直な子達である。しかし、人との関わり方がうまくなかったり、自分の考えに自信が持てなかったりするので、自己肯定感が高くはない。そのため個々の児童の良さを見つけ合い認め合うことで自信を付けさせるとともに、社会で生きていくために必要な基本的な力をきちんと身につけさせていきたいと考えた。

(4) 単元の目標

- 実物をよく観察し、目や口、鼻や手触を使って、その物の様子を分かりやすく言葉で伝えることができる。
- 友達の発表を聞きその良さを見つけ、自分の考えにも生かそうとする態度を養う。
- 友達の考えを受け入れ、相談しあって考えをまとめることができる。

3 単元の指導計画（全4時間）

時 間	学 習 活 動
1	○教師が用意した文を視写し、文章の書き方を知る。
2	○ミニトマトを観察し、体を使って物の様子を伝える作文を書き、良い表現について交流し合う。 ○1年生と教師のペア、3・5年生のペア（2組）の3チームに分かれ、果物を観察し、「これはなんでしょう？」クイズを考える。 ○考えたクイズを出し合う。
3	○わたあめを観察し、体を使って物の様子を伝える作文を書き、良い表現について交流し合う。 ○1年生と教師のペア、3年生同士のペア・5年生同士のペアの3チームに分かれ、おやつを観察し、「これはなんでしょう？」クイズを考える。 ○考えたクイズを出し合う。
4 本 時	○対象物を観察し、体を使って物の様子を伝える文を書き、良い表現について話し合う。 ○聞き手が期待感を持てるようなヒントの内容や出す順番について話し合う。 ○1年生と教師のペア、3年生同士のペア・5年生同士のペアの3チームに分かれ、おやつを観察し、「これはなんでしょう？」クイズを考える。 ○考えたクイズを出し合う。

4 本時の指導

(1) 目標

- 対象物をよく観察し、目や口、鼻や手を使って、その物の様子を分かりやすく言葉で伝えたり、書いたりすることができる。
- 友達の考えも受け入れ、相談しあって「これはなんでしょう？」クイズを作ることができる。

(2) 本校の研究に関わって

- 「共有の課題」では、対象物をじっくり観察し、様子を表す言葉をたくさん発表させることにより、語彙を増やしたい。
- 「ジャンプの課題」では、すぐに答えが分かってしまうのではなく、聞き手が最後まで聞きたいなあと思うようなヒント（物の様子を表す文章）を考えることを意識させたい。
- 「ペア」の作り方について
以前3年生と5年生でペアを作ったとき、お互い遠慮し合い積極的に意見を出さなかったので、本時は話しやすいように、同じ学年同士にした。また、書く学習においても同学年同士の方が相談しやすいという児童の意見も生かしペアを作った。
- 「学び合い」について
ペアでクイズを考える活動を学び合いの場とした。ジャンプの課題②について、一人よりも二人で相談させた方が言葉に対する感覚がより深まるのではないかと考えた。また、普段個別での指導の多い子どもたちにとって、二人で相談し合う活動はとても大切な活動である。1年生、3年生、5年生の発達段階や個人差に応じた様々な考えが出されると思うが、そのことがどんぐり学級の良さでもある。人との関わり合いを通して、自分の世界を広げていき、学習意欲を高めさせていきたい。

(2) 個人の目標と支援

	目 標	支 援
1年 A男	教師の声がけに反応する。 T2と一緒に考えることができる。 友達の発表に反応する。	T2が個別支援を行い、一緒に考える。 つぶやきを拾い、T2がワークシートに書く。 人前で発表できたときはたくさんほめる。 発表者の顔を見るように促す。
3年 B男	体を使った物の様子を表す言葉を、自分で考えることができる。 相手の考えを受け入れながら、相談してヒントになる文を書くことができる。	自分が納得するまでじっくり考えるので、できたときはたくさんほめる。 子どもの様子を観察し、必要に応じて声がけをする。 相手の考えをよく聞くように促す。
3年 C男	体を使った物の様子を表す言葉を、自分で考えることができる。 大きな声で発表することができる。	少しでもわかりにくいことがあると消極的になってしまうので、教師が声がけをし、安心感を与えながら考えさせる。 人前で発表できたときはたくさんほめる。
5年 D男	体を使った物の様子を表す言葉を、自分で考えることができる。 相手の考えも受け入れることができる。	ヒントになるような言葉を教師が投げかける。 あせらないでゆっくり考えるように、教師がそばにいて促す。相手の話を聞くように促す。
5年 E男	体を使った物の様子を表す言葉を、自分で考えることができる。 実物をよく観察し、ヒントになる文を考えることができる。	自分の考えに自信が持てるように励ます。 子どもの様子を観察し、必要に応じて声がけをする。 自分で考えたときはたくさんほめ、さらによい表現方法がないか教師と一緒に考える。